事例No.	2879
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	香川県さぬき市

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

事例７　香川県さぬき市　一般社団法人さぬき市津田地区まちづくり協議会　その１、その2

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第3回）

事例７　香川県さぬき市　一般社団法人さぬき市津田地区まちづくり協議会　その１

団体名	一般社団法人さぬき市津田地区まちづくり協議会		運営形態	一般社団法人
活動範囲	所在市区町村内全域			
中核を担う職員等	任用形態	役員、正社員、バイト、その他複数	出身地	地域内、関西圏、関東圏など幅広く在籍
	年齢	20代、30代、40代、50代、60代、70代以上		

【取組み概況】

○さぬき市から**地域おこし協力隊の募集や採用のサポート**を委託しており、さぬき市の担当者は以前サポートがない時と比較し、**隊員のミスマッチの防止**が図られていると感じている。

○活動範囲は「津田地区限定」としているが、関係人口の創出に力を入れる津田地区のモデルをいかして他の地域でもスタートアップ・企画の支援につなげるため、今年度から津田地区外での活動を視野に入れた地域おこし協力隊の受け入れを行っている。

○最近では香川県の助成金に採択され６店舗オープンしメディアに注目される。また、小学校の先生が来訪し、校外学習を通じ子供がどのような関わりが可能か意見交換を行い、フィールドとして利用する可能性を模索している。

○今後は、**スタートアップの支援**、**若者向けのコミュニティの創出**、**長期的に津田に関わり地域の課題を一緒に解決する取組み**を計画している。

【設立の経緯】

○当初は農林水産省の農泊推進事業の採択を受け、任意団体「さぬき市津田地区漁業活性化協議会」として設立した。行政主導で始まり尻すぼみになっていく団体が多々ある中で、**自分たちの地域のことは自分たちで考えていこう**という考えのもと**任意団体から一般社団法人**となった。

○会費に基づく会員制度となると、**会員に還元しないといけないという力が作用**したり、**若者の苦手な意識である**ということから、正確に会員数は決まっていないが、全体の意思決定を行う会合には３０程の事業者が参加している。

事例７　香川県さぬき市　一般社団法人さぬき市津田地区まちづくり協議会　その２

【行政との関わり】

○さぬき市の**地域おこし協力隊の募集及び採用支援**、**着任してからのサポート**をしている。募集はSMOUTなど様々なサイトで支援しており、採用は**お試し地域おこし協力隊**の段階から応募者とやりとりをしている。

○今年度、協議会は**「関係人口の創出」**をテーマに事業を行っており、さぬき市の**地域活性化補助金**、**香川県の関係人口の助成金**を受け、２週間の滞在プログラムを企画した。

○さぬき市と協議会が関係を持ち始めたのは協議会から**協力隊の配置について提案**があった事が契機。

【中核を担う者の状況】

○代表は福島県出身。本業で津田地区で日本ドルフィンセンターというイルカのふれあい施設の社長もしている。事業を行っていく中で地域を引っ張って**津田を良くしていこう**と感じ、町の活力を取り戻すため、協議会の活動に力を入れている。

○理事は**津田出身**であり、高校まで津田で育つ。その後、大阪の大学へ行き**農村・漁村の都市計画**をメインで専攻した。大学４年次にコロナ禍となり卒業設計や都市計画の実地を行うため地元へ戻った。

○大学時代に**岡山県西粟倉村**にて**地域おこし協力隊の中間支援・起業型の支援**を行うまちづくり会社と業務委託で関わる。さぬき市にその時に学んだことを持ち帰り、津田地区でも地域おこし協力隊の採用や支援にメインで携わるようになったもの。

○協議会としては役員５名、正社員１名、バイト５名から６名という構成。

○地元の津田高校が**クラブ活動で地域貢献**を行い協議会と連携しており幅広い年代が街にいる。